

第3回施策検討ワーキング・グループにおける議論のポイント

平成 22 年 9 月 8 日

◆ 全体、その他

- 「人財」に関して、「人材」を用いるべき。（松本委員、下村委員）
- 現状の構成を変えないならば、Ⅰ章にⅡ章とⅢ章の関係やⅡ章の位置付けを記載すべき。（松本委員、中西委員、中鉢議員）

◆ Ⅲ章全体

- 本章は、Ⅱ章と同様に重要課題である。（松本委員）
- タイトルや構成について、方向性や意図が明確になるよう修正すべき。（奥村議員）
- 具体例は、範囲を狭めるため、削除すべき。（松本委員、奥村議員）
- 主体を明確にして「国はこう考えている」という表現にすべき。（橋本委員）

◆ Ⅲ. 2.

- ICTは、重要な基盤であり、位置付けるべき。（中鉢議員、松本委員、下村委員）
- ICTの他産業への寄与度や日本発の論文の引用度を考慮すると、今後広く普及させることが重要。（青木議員）

◆ Ⅲ. 2. (1)

- タイトルに「豊かで」を追加すべき。（中西委員）
- 「食料」は、「食糧」とすべき。（中西委員）
- iii) に「モビリティ」を含めるべき。（松本委員、下村委員）

◆ Ⅲ. 2. (2)

- 各段階における国の施策を明確にすべき。（中馬委員）
- 「ものづくり」を時代に即して再定義した上で引き続き推進すべき。「もの」は、サービスやコンテンツなど新たな価値を創出する行為を含む。（中鉢議員、下村委員）

◆ Ⅲ. 2. (3)

- 我が国の世界的な位置付けを考慮すると本節を新たに設定することに賛成。（松本委員）
- i) と ii) に分ける必要はない。ii) も局所だけでは解決できなくなっており、それを一般的な課題として捉えることが重要。（相澤議員、中西委員）

◆ Ⅲ. 3. (2)

- 領域横断的な計測技術等は、今後産業競争力に大きく影響を与え、公共財としての重要性がさらに高まることが予想されるため、より踏み込んで記載すべき。（中馬委員）

◆ Ⅲ. 4.

- イノベーション戦略協議会は、Ⅱ、Ⅲ章に共通する仕組みを想定しており、お互いが異なるという印象を与えないように表現を工夫すべき。（相澤議員）

◆ IV章全体

- 人材や国際展開など全体の内容を包含するタイトルに修正すべき。（相澤議員）
- イノベーション創出のための人材育成などを含め、イノベーションを意識した観点を含めるべき。（下村委員）
- 推進方策を含めて具体的な内容が書かれ過ぎており、記載内容以外が排除される恐れもあるため、レベル感を考慮しつつ整理すべき。（橋本委員、奥村議員）
- いろいろな部分に「評価」と記載されているが、査定のため評価を行うだけではなく、人を育てるため評価の情報を提供するという視点を含めるべき。（中馬委員）
- 5. を除くと第1期からほぼ同じ内容であり、新たに第4期計画において取り組む内容を議論して欲しい。（奥村議員）

◆ IV. 2. (1)

- 運営費交付金の内訳を記載したことに賛成。（松本委員）
- 成果の社会還元という観点を含めるべき。（下村委員）
- 推進方策は、予算要求だけではなく、質に関する事項を含めるべき。（中鉢議員）
- 運営費交付金の一律削減は反対。機能分化による選択と集中を含め、研究開発力や人材育成力を減退させない方策などを検討すべき。（松本委員、下村委員、奥村議員）

◆ IV. 2. (2)

- 論文平均被引用度という指標は、記載すべきではない。（中西委員）

◆ IV. 3. (1) ①

- 定量性に拘らず、慎重かつ多面的な評価をすべき。（中西委員、松本委員）

◆ IV. 3. (1) ②

- 博士課程修了者が様々な分野で活躍できるようその支援を行うべき。（中西委員）

◆ IV. 3. (1) ③

- アカデミアに残る研究者と技術者のカリキュラムをどうすべきかについて、国の方針を明確に示すべき。（今榮議員）

◆ IV. 3. (2) ②

- 若手研究者の安定的な雇用に関する方策を記載すべき。（松本委員）

◆ IV. 3. (2) ③

- 数増加だけではなく、質の向上も考慮すべき。（中西委員）
- リーダーとなる女性研究者を増やす方策を記載すべき。（今榮議員）

◆ IV. 4. (1) ②

- 共用の先端研究施設や設備は、全体における個々の研究の位置付けをクリアにし、また、システム的な発想を起こりやすくするなど重要であり、そのために使い勝手を良くする改善点などを書き込むべき。（中馬委員）

◆ IV. 5.

- III章に移動すべき。（中鉢議員）
- 国際競争と国際協力・協調を総合して戦略展開すべきであり、その中心軸を明確に示すべき。（相澤議員）